



毎月十五日発行 所大社 宗像 定価 一年送料共 1000円

早春若布献上 第四十回

皇室の御安泰と弥栄を祈念し

宗像七浦漁民の赤誠を込めて



皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念し、玄界の荒磯で採られた巨春の若布を毎年献上し上げています。「若布献上の儀」が、今年で四十回目を迎えました。

皇室の御安泰と聖寿の長久万歳を祈念し、玄界の荒磯で採られた巨春の若布を毎年献上し上げています。「若布献上の儀」が、今年で四十回目を迎えました。宗像大神の御神徳が、皇室・国家の安泰にあるという由縁を以って、昭和三十三年、宗像郡六漁業協同組合(大島・鐘崎・神湊・地ノ島・津屋崎・福岡)の組合員で結成された「宗像大社海洋神事奉賛会」(会長 長村田繁美)地ノ島漁業協同組合長の重要事業で、今年も神郡宗像の漁業関係者の皇至への赤誠が示された。

今冬も数百年の異常現象で、若布の生育が心配されたが、比較的温暖な日が多く、漁業者及び関係者の、一日も早く献上し上げたという熱い願いが叶い、良質な玄界若布に育った。一月後半より献上用若布の採取を開始、奉仕者が寒風肌刺す中、海に漕り刈り取った天然の新若布は、古来からの大日下製法で、板干し若布として謹製され、二月二十七日各漁協に送る。合計二十区の磯の香りも馨しい、玄界産特産板干し若布が当社に納められた。当社では宮内庁の意向

を受け、三月五日に献上日を決定。早速指遣神職、巫女により献上用若布の奉製作業を開始。納められた若布を更に厳選し、献上品として相応しい最良品質の若布を選定し、袋詰する作業が続けられた。三月一日には、その模様を地元記者クラブが取材、翌日の朝刊に紹介された。一方、例年この事業に際して、全面的に御支援いただいている出光興産株式会社、全日本空輸株式会社への協力依頼を行うなどの諸準備も進められた。奉製作業は上京前日迄続けられ、杉正目の木箱四箱に丁寧に納められた。齋館特別室に保管された。三月四日午前九時、千分海洋神事奉賛会代表、入が参列のもと、若布献上奉告祭を齋行。献上の善美を祈念し、祭典終了後、太田宮司以下献上者は、白布に包まれた若布箱を捧持し当社を出発、福岡空港へと向かった。

空港では、毎年この事業の輸送協力をいただいている全日本空輸株式会社の特別待合室にて待機。十一時三十分より、行が搭乗するANA252便東京行き第二ターミナル六番ゲート前、「若布献上手渡し式」が行われた。

テレビ局六社の取材を受け、一般乗客が見守る中、宮司はじめ献上者、全日空(株)福岡支店長他関係者、当社社巫女、全日空(株)客室乗務員が参列。献上用若布をお載せし、航空安全を祈念した。続いて巫女四人が全日空(株)客室乗務員に白布に包まれた若布の木箱を手渡し、機内へ運ばれた。搭乗時刻には巫女から、

「若布献上の儀」は無事終了した。これから神郡宗像は、春の装いも日毎に深くなり、境内の桜の蕾も影らみ始め、小鳥達の囀りと共に、暖かな陽気を運んでくる。本年の若布献上者は左記の通りである。

宗像大社宮司 太田 可愛
権検宜 伊藤 佳和
地ノ島漁業協同組合 組合長 村田 繁美
神湊漁業協同組合 組合長 花田 経廣

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

が行われた。テレビ局六社の取材を受け、一般乗客が見守る中、宮司はじめ献上者、全日空(株)福岡支店長他関係者、当社社巫女、全日空(株)客室乗務員が参列。献上用若布をお載せし、航空安全を祈念した。続いて巫女四人が全日空(株)客室乗務員に白布に包まれた若布の木箱を手渡し、機内へ運ばれた。搭乗時刻には巫女から、

「若布献上の儀」は無事終了した。これから神郡宗像は、春の装いも日毎に深くなり、境内の桜の蕾も影らみ始め、小鳥達の囀りと共に、暖かな陽気を運んでくる。本年の若布献上者は左記の通りである。

宗像大社宮司 太田 可愛
権検宜 伊藤 佳和
地ノ島漁業協同組合 組合長 村田 繁美
神湊漁業協同組合 組合長 花田 経廣

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

神具・装束 株式会社 井筒
福岡店 福岡市東区東公園一三三(092)2405
本店 福岡市東区油小路北入一九四五六番
電話 福岡(092)651-1945
京都店 京都市京区油小路北入一四〇(823)
電話 京都(075)341-1400

木組の家 匠の技
総合建設業 株式会社 弘江組
事務所 81106 福岡県宗像市大字福元一〇二五
電話 (0940) 331-1567

御札
節分祭奉行に際しましては、ご崇敬の皆様より心からなる御協賛を賜り厚く御礼申し上げます。
お蔭をもちまして、祭典も無事盛大裡に齋行することが出来ました。
ここに紙面をかり、謹んで御礼申し上げますと共に、皆様方の益々の御繁栄を心より祈念申し上げます。
平成十四年三月吉日
宗像大社社務所 各位

余滴
空木(卯木)という木がある。材質は非常に堅く、幹の中は空になっていることからウツギ(空木)の名が出たといわれる。初夏白色の花が咲く高さ二メートルほどの落葉低木。昔からその堅さから木釘などに加工されている。
古代より、この木は、火鑽りの「杵」として用いられている。島根県の熊野大社では、今でも、このウツギで火を起す神事が続いている。鑽り出す方法は、楡の板にウツギの丸い棒を立てて、両手で力を入れてのみ発火させる。この熊野大社で鑽り出した神聖な忌火は出雲大社の神事に使用されている。
人間は火を制し文明をおこしてきた。日本の神話では、伊弉諾命が火の神である如具土神を産み、女神を焼きつくす。その苦しみの中、嘔吐物から飯山の神葉から陶土の神、尿から瀧水の神が生まれ、農業に必要な女神が出現されている。このことは、金属による農器が現れ本格的な農耕社会が始まった事を現しているように思われる。神話では、その火の重大さを伝えて「空木」という地名が、国東半島の険しい山中にある。この地には火の神である如具土神を祀る愛宕社が鎮座していて、火防の神として信仰が厚い。
この里では、火の神を勧請した時を偲び、古代をひとときながら地名と同じウツギを用いての火鑽神事の準備が進められていると聞く。
(H・W)

宗像大社 社務所
記
三月三十一日(日) 午後五時 総社地主祭
三月三十一日(日) 午後六時 高宮祭
四月一日(月) 午前十一時 大祭
二日(火) 午前十一時 総社祭
午後二時 高宮祭
午後四時 第一宮・第二宮祭
午後六時 南坊流小方社中

三月三十一日(日) 午前九時 奉納剣道大会 (於境内一本殿脇)
墓所が整備され、玄海町史跡に指定された。
乱世のため三年間氏貞公の死は秘密にされ遺骨は夜中ひそやかに忠臣、占部門前前に四ツ塚連山の霊峰孔大寺山、左に湯川山がそびえ、右に右の山脈は氏貞公の居城「葛ヶ嶽城」のあった城山へと続いている。

宗像大社中興の祖と仰がれる第八十代大宮司宗像氏貞公の墓前祭が、去る三月四日、宗像郡玄海町上八にある氏貞公墓前に於て、高

紀元節を寿ぎ

建国祭齋行

皇紀二六六二年



により様々な、それぞれ根拠・由緒がそれぞれ存在している。我が国の起源については少し追ってみる。

我が国では、神武天皇が大和国の畝傍の橿原(現在の奈良県橿原市の畝傍山)で初代の天皇として即位された日を建国日とし、その年を皇紀元年としている。日本書紀にも辛酉年正月庚辰朔の日を神武天皇即位紀元(神武紀元)としている。各国の建国紀元をたずねると宗教の事情によつて異なるものが多い。キリスト教のキリスト紀元

元(西暦)、「ユダヤ教の「ユダヤ紀元」、イスラム教の「イスラム紀元」(ヒジャリ聖遷)、仏教の「仏滅紀元」等がある。今年をこれらの紀元で表すと、キリスト紀元は二〇〇三年、イスラム紀元は一四三三年、仏滅紀元は二五四六年、世界の創造後から数えるユダヤ紀元はなんと五七六二年となる。新しく革命や独立によって生れた国々においては、歴史的に詳細まで分るが、どの国も国を挙げて奉祝している。米国の建国記念日の七月四日はかなりの日本人も知っている。日本の建国記念日に行われる軍事パレードは日本のニュースでよく目にする。そう考えると我が国や隣国の韓国など千年単位の歴史を有する国が、建国を祝うことに何ら矛盾はない。現に韓国では檀君紀元で四三三六年となり、国を挙げて奉祝している。それぞれの国家・民族は独自の紀元を有し、それを誇りとして国家を形成しているはずであるのに、二月十一日を「実証出来ない、根拠がない、架空の人物・事象である」として祝うこと出来ない、日本人が少なからずいる。百年・二百年の歴史であれば容易に実証も出来るが、二千数百年の歴史をも我が国で果たして実証できるものがどれほど存在するであろうか。我々日本人の有史した固有の歴史、国民感情を考慮すると、学問的・思想的・宗教的様々な立場で「建国日について話し合おう」とは大切だが、賛成・反対を討論すべきことではないはずである。

大社に神宝② "金銅製高機" 手先の器用な日本人の原点 航海安全祈願の際に沖ノ島の御神前に供えたのである。これは国を挙げた大事業であったに違いない。そもそも我が国における織物の生産は紀元前千年以前より開始され、その頃の土器佐賀県菜畑遺跡出土にあった布目の庄痕により、織物の存在と小道具を用いた織物の生産が確認されたのである。五世紀になると大陸から朝鮮半島を経て「地機」が伝来する。「地機」は原始機に機台が付属したもので、織る者が機踏(まねき)・繩を両端から、一方は綜統に、もう一方は足の親指に結んだ細棒に結んだものである。足繩を引張ることによって、連結した綜統を開口する。「高機」とは、機台の高くなったものや、絹織物の生産に対応したものをさす。これらの織機は原始機より地機より型も変化して行く。「日本書紀」には「応神天皇の御代、阿知使主(あちのみ)を具の国に遣わして四人の織工女(きぬむひめ)を求めた。織工・弟媛・異織・穴織を連れて帰国し筑紫に來た際、宗像大神が工女を所望されたので、その中の穴織(えひめ)を奉った」とある。以上、宗像大神は織機の業に結びつけ、一方は織る者の身体に付けられている。

宗像大社奨学金受給生(第四十三期) 選考校長会開催

今年度、宗像大社奨学金・宗像大社奨学基金の奨学生を選考する宗像地区中学校校長会が、三月一日当大社齋館にて開催された。この奨学金制は昭和十四年十一月十日陛下御成婚を記念して創設され、毎年宗像市・郡の中学校の校長より推薦された各校の奨学基金受給生を宗像大社に送る。また平素から学社を厚く崇敬されている、医療機器メーカー「セトル・ユニ」本社北九州市・小倉北区 荒井藤雄会長による浄財で支給されている「宗像大社奨学基金」は今年も同時に支給され、今回三年目となる。

我が国の創建を祝う建国祭が、寒風を払い、冷え込み厳しい二月十一日厳肅裡に齋行された。宮司が神武天皇創始以来の我が国の国体護持と皇室・国家・国民の弥蒙を祈念し祝詞を奏上。続いて巫女が御安舞奉納し祭典は滞りなく終了した。今を去る六十一年前の昭和十五年の「紀元紀元」六百年奉祝式典は、国を挙げての記念式典が行われ日本中で「日の丸」が春風にそよいだ。しかし昭和二十年の敗戦により「皇紀」は西暦となり、現在は神社関係他、部宗教界においてのみ「建国祭」の儀式が行われている。

毎年この日が近づくと、各地で建国奉祝賛同論議が行われるのも恒例となった。「建国記念の日」は全世界どの国においても大切に守られ、国の数だけ「建国記念日」と「国旗」がある。

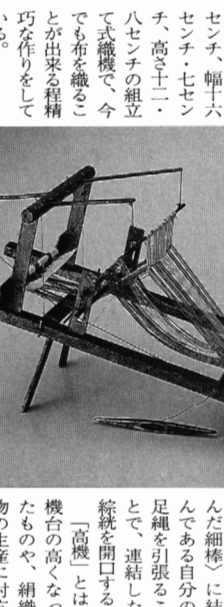
今年度の宗像大社奨学金・宗像大社奨学基金の奨学生を選考する宗像地区中学校校長会が、三月一日当大社齋館にて開催された。この奨学金制は昭和十四年十一月十日陛下御成婚を記念して創設され、毎年宗像市・郡の中学校の校長より推薦された各校の奨学基金受給生を宗像大社に送る。また平素から学社を厚く崇敬されている、医療機器メーカー「セトル・ユニ」本社北九州市・小倉北区 荒井藤雄会長による浄財で支給されている「宗像大社奨学基金」は今年も同時に支給され、今回三年目となる。

今年度、宗像大社奨学金・宗像大社奨学基金の奨学生を選考する宗像地区中学校校長会が、三月一日当大社齋館にて開催された。この奨学金制は昭和十四年十一月十日陛下御成婚を記念して創設され、毎年宗像市・郡の中学校の校長より推薦された各校の奨学基金受給生を宗像大社に送る。また平素から学社を厚く崇敬されている、医療機器メーカー「セトル・ユニ」本社北九州市・小倉北区 荒井藤雄会長による浄財で支給されている「宗像大社奨学基金」は今年も同時に支給され、今回三年目となる。

昨春、荒井会長より選定書を受ける生徒たち

我が国における織物の起源は何時なのであろうか。機織りの技術は弥生時代に大陸から稲作や金・鉄技術等と共に渡来したといわれている。渡来時の織機は「原始機」とい、当大社の高機のように機台(経糸を他の部品を安んずる動きやすい状態にする枠形の白の)のない段階の機であった。経糸の一方は立木や柱に結びつけ、もう一方は織る者の身体に付けられている。

宗像大社 宗像郡 宗像大社 宗像大社事務所 儀式課 宗津宮現地大祭係 電話 〇九四〇一六二二一(一)代 FAX 〇九四〇一六二二一(一) 宗津宮現地大祭係



宗津宮現地大祭 宗津宮現地大祭係 電話 〇九四〇一六二二一(一)代 FAX 〇九四〇一六二二一(一)

第八回 奥宮野球塾

熊本より来社



魂)に参加日頃馴れない正座で足の痛みもあつたと思われ、と奥宮講師はメンタルトレーニングの一場面を振り返らせた。奥宮講師は「奥宮野球塾は今年も大成功であった。」

熊本県池田市の七城小学校の生徒・保護者約四十人來社し、第八回の奥宮野球塾が三月九日(土)当大社で開催された。

「昭和大造營」完成の折、遷宮・遷座祭並びに同奉祝大祭の神賑行事として、第一回目の西日本菊花大会が開催された。昭和五十九年の第九回大会では至難の技といわれる大輪の部に於いて若十三歳の大森敏氏が優勝、農林水産大臣賞を授けられた。

宗像菊友会入会のお誘い

あなたも菊作りをはじめませんか

現在でも破られておられる。もちろん他の多くの会員が大臣賞を受賞し、熱心な活動を続けています。菊作りを始めようかとお考えの方、どうぞお気軽に「ご連絡ください。菊を初めて作ってみようとお考えの方、大歓迎いたします。」



昭和四十六年の宗像大社「昭和大造營」完成の折、遷宮・遷座祭並びに同奉祝大祭の神賑行事として、第一回目の西日本菊花大会が開催された。昭和五十九年の第九回大会では至難の技といわれる大輪の部に於いて若十三歳の大森敏氏が優勝、農林水産大臣賞を授けられた。

決断力 その時昭和の経営者たちは

出光興産株式会社 出光佐三店主

「理念の確立まで」①

家業の倒産で独立を決意した出光佐三は、昭和十一年(明治四十二年)の初夏、父出光佐三は久しぶりに、なつかしい赤間(福岡県宗像市)の生家の前に立った。会社や銀行に就職した神戸高商時代の友人たちからは「前だれ掛りで大八車なんか引いて、出光は学校のツラ汚しだ」といわれながらも、佐三は商人としての才能をあらわし始めていた。見込まれて台湾出張、三井物産を相手に小麦粉の売り込み競争に勝つての掃部であった。

「その悲惨な状態を見て、半、下手に荷馬車をとめる心したんだ。五年くらいしてからやるつもりだったが、家業が失敗したに僕だけが月給取りをしておつては、家族を養うことができない。それに、母が血の出るような思いをしなが学校を出してくれたんだ、あとで生家はその後買い戻され、いまは縁縁にあたる早田勉氏が管理しておられる。通りが通った部屋には、佐三が愛用した机があり、大きな顔写真が飾られている。奥の部屋には父松寿翁の自筆の絵を描き込んだ戸袋など、いまも調度として使われている。出光家の祖先は、大分県の宇佐神宮の大宮司であった、という。徳川初期ころ、その一族である出光良元が赤間に移り住み、赤間出光の祖となった。

第四八九回 宗像大社歌会詠草

大野 展 男 選 毎月25日 切

福間 中村 勇 「その悲惨な状態を見て、半、下手に荷馬車をとめる心したんだ。五年くらいしてからやるつもりだったが、家業が失敗したに僕だけが月給取りをしておつては、家族を養うことができない。それに、母が血の出るような思いをしなが学校を出してくれたんだ、あとで生家はその後買い戻され、いまは縁縁にあたる早田勉氏が管理しておられる。通りが通った部屋には、佐三が愛用した机があり、大きな顔写真が飾られている。奥の部屋には父松寿翁の自筆の絵を描き込んだ戸袋など、いまも調度として使われている。」	日里 佐藤 純一 初詣の渋滞ぬみて自転車は漕ぎ足からし追風うけて	日里 石松 弘次 朝あき居間より見遣やる許斐山暗れの兆しか後線さやか
福間 池浦千鶴子 頼みたる大根夫は引ききて来ぬ紅き椿の一枝をそへて	池田 小田 イセ 歳ごとに駄目になりゆく目や耳のながき苦勞をしみじみ思ふ	大鳥 越智 治子 自生する鳥の水仙咲くなかを去みゆくとき波音たかし
田野 森 甲子 亡き義父の育てし庭の白梅は大き白扇げしことし	吉留 高山 信子 バス停にバス待つ人のためならむ将棋台あり行橋こは	名古屋 小田 喜一 大きな電球あまた吊りてゐる鳥籠釣り船は港に舫ふ
田野 森 つるの 真夜中の部屋に眼を閉じ聞きてをり速く森の葉の音	曲 天野 玲子 父の足はならないなりし酒を買うぐいし飲む顔思い浮かべて	光岡 河村 久光 パイパスをへだつスパーの大看板立ちあがる傍の白梅の花
自由ヶ丘 北山 文子 退院し去りたる友をしのびつつ主なきベッドに名前つ	武丸 中村さつき 木の間より真つ赤な太陽昇り来て節分の今日日の出の早し	名古屋 小田 留子 鳥たちの贈りものなる千両に赤き実のなり狭庭磨るし

〔評〕 歌を作る悦楽ここにあり、かくして長寿。日里 石松 知子 セーターの編み目を透(とお)す風うけて蓄みそめた校木仰ぐ。福間 池浦千鶴子 頼みたる大根夫は引ききて来ぬ紅き椿の一枝をそへて。田野 森 甲子 亡き義父の育てし庭の白梅は大き白扇げしことし。吉留 高山 信子 バス停にバス待つ人のためならむ将棋台あり行橋こは。田野 森 つるの 真夜中の部屋に眼を閉じ聞きてをり速く森の葉の音。曲 天野 玲子 父の足はならないなりし酒を買うぐいし飲む顔思い浮かべて。自由ヶ丘 北山 文子 退院し去りたる友をしのびつつ主なきベッドに名前つ。武丸 中村さつき 木の間より真つ赤な太陽昇り来て節分の今日日の出の早し。名古屋 小田 留子 鳥たちの贈りものなる千両に赤き実のなり狭庭磨るし。大鳥 越智 治子 自生する鳥の水仙咲くなかを去みゆくとき波音たかし。日里 石松 弘次 朝あき居間より見遣やる許斐山暗れの兆しか後線さやか。池田 小田 イセ 歳ごとに駄目になりゆく目や耳のながき苦勞をしみじみ思ふ。福間 池浦千鶴子 頼みたる大根夫は引ききて来ぬ紅き椿の一枝をそへて。名古屋 小田 喜一 大きな電球あまた吊りてゐる鳥籠釣り船は港に舫ふ。田野 森 甲子 亡き義父の育てし庭の白梅は大き白扇げしことし。吉留 高山 信子 バス停にバス待つ人のためならむ将棋台あり行橋こは。田野 森 つるの 真夜中の部屋に眼を閉じ聞きてをり速く森の葉の音。曲 天野 玲子 父の足はならないなりし酒を買うぐいし飲む顔思い浮かべて。自由ヶ丘 北山 文子 退院し去りたる友をしのびつつ主なきベッドに名前つ。武丸 中村さつき 木の間より真つ赤な太陽昇り来て節分の今日日の出の早し。名古屋 小田 留子 鳥たちの贈りものなる千両に赤き実のなり狭庭磨るし。大鳥 越智 治子 自生する鳥の水仙咲くなかを去みゆくとき波音たかし。日里 石松 弘次 朝あき居間より見遣やる許斐山暗れの兆しか後線さやか。

〔評〕 人生は常に一期一会である。まして病院での出会いともなれば猶更である。

〔評〕 エコロジー時代にふさわしい乗物の自転車。作者の快哉(かいさい)の気持ちが見えるようだ。

〔評〕 目や耳に対する感謝の気持ちは、また自分自身に対する慰撫でもある。

〔評〕 平均寿命が長くなった今、六十歳は、中年とも初老とも言える灰色ゾーンである。中年晩期とも呼ぶべきか(高野公彦著歌を愉む)であるが、私の歌の師、宮城二は

去りゆきし少年時 戦時壮年時 遷歴一歳爾後(じ)と詠っている。若々しい中間さんの歌に、乾杯しよう。

〔評〕 或る程度の加齢者には一種の郷愁を感じさせてくれる。そこがよい。

〔評〕 人生は常に一期一会である。まして病院での出会いともなれば猶更である。

〔評〕 エコロジー時代にふさわしい乗物の自転車。作者の快哉(かいさい)の気持ちが見えるようだ。

〔評〕 目や耳に対する感謝の気持ちは、また自分自身に対する慰撫でもある。

〔評〕 平均寿命が長くなった今、六十歳は、中年とも初老とも言える灰色ゾーンである。中年晩期とも呼ぶべきか(高野公彦著歌を愉む)であるが、私の歌の師、宮城二は

去りゆきし少年時 戦時壮年時 遷歴一歳爾後(じ)と詠っている。若々しい中間さんの歌に、乾杯しよう。

〔評〕 或る程度の加齢者には一種の郷愁を感じさせてくれる。そこがよい。

〔評〕 人生は常に一期一会である。まして病院での出会いともなれば猶更である。

〔評〕 エコロジー時代にふさわしい乗物の自転車。作者の快哉(かいさい)の気持ちが見えるようだ。

〔評〕 目や耳に対する感謝の気持ちは、また自分自身に対する慰撫でもある。

〔評〕 平均寿命が長くなった今、六十歳は、中年とも初老とも言える灰色ゾーンである。中年晩期とも呼ぶべきか(高野公彦著歌を愉む)であるが、私の歌の師、宮城二は

去りゆきし少年時 戦時壮年時 遷歴一歳爾後(じ)と詠っている。若々しい中間さんの歌に、乾杯しよう。

〔評〕 或る程度の加齢者には一種の郷愁を感じさせてくれる。そこがよい。



赤間(福岡県宗像市)の生家と街並み

宗像大社歌会 俳句作品集 四六四

東郷 田中 畫象
寒屋や
いつもが男
松島

日の里 花田いつ枝
また一つ
音して宮の
落椿

東郷 吉武 湧泉
着ぶくれて
身依にならぬ
瓜を摘む

東郷 吉田 亨子
命ある
よろこび初日
おろがみて

東郷 三浦美千代
神ありて
佛もありて
雛の家

東郷 田中 雨粟
重なりて
堂に折鶴
枯野村

東郷 木原 房子
冬麗や
神鼓響ける
祓殿

福岡 森 清
初に來し
下手な籠
鳴き止まず



(続)

浜の寄物

164

いししいただし

春一番が吹き、漂着物の季節も終った。今年もソンドイカの漂着は多かったし、テレビやラジオでも報道されたため、福岡・津屋崎・多く、その場で頭と皮を剥ぎとったものも多かった。北原浜には海産物のヒラタクサ、オカメアンプクが大量漂着した。ヒラタクサは殻は薄くもろく、踏むとすぐにつぶれる。ソンドイカにはじまり、二ヶ月にはウスバハギの漂着も多量に増え、ヒラタクサの殻は薄くもろく、踏むとすぐにつぶれる。ソンドイカにはじまり、二ヶ月にはウスバハギの漂着も多量に増え、ヒラタクサの殻は薄くもろく、踏むとすぐにつぶれる。



昨年大量漂着したハリセンボンも多量に増え、ヒラタクサの殻は薄くもろく、踏むとすぐにつぶれる。ソンドイカにはじまり、二ヶ月にはウスバハギの漂着も多量に増え、ヒラタクサの殻は薄くもろく、踏むとすぐにつぶれる。

他にも太平洋側にもイルカが大量ストランドイングした。二月二日は津屋崎・恋の浦に揚がった体長四・七メートルのオキハクジラは、近年日本海沿岸に漂着が目立ち、注目されている種である。漂着原因の一つに、体内に異物が詰まっているという。石油化学製品の漁網の端切れやゴミ袋である。この数年漂着が続いているものに海産のアサガがある。年に数回は津屋崎・福岡海岸で大量に漂着が見られる。浜に陸上緑色になったのは異常な光景だ。今年も昨年につづいて漂着中なのがポリタンクである。津屋崎・福岡・岡田浜と、統統と漂着が起きている。山陰海岸も漂着が多いと下関市の樺村から連絡を受けた。

ポリタンクの漂着は異常である。海上保安庁も、この調査をし事態を各県ごとに把握する必要がある。これは流出でなく、タンクが引いている時には、砂地に漂着しているビニールやプラスチック、発泡スチロールを、護岸側の道路に投げあげ、あるいは大きなものは引き揚げ、それを近く設置されたビニール袋



アサガと白いハリセンボン(福岡花見)

に収納、更にそれを海岸入口の置場に運ぶ。一週間もたてば、ゴミの山となる。ポリタンクは一月から三月まで、一五〇個を数えた。集められたゴミは古賀側は市役所が、福岡側は町役場の環境課が運んでいる。お蔭で海岸のゴミが少なくなると、ゴミを捨てる人もない。近くの花見小学校でも海岸にポスターや標語を掲示し海岸美化を訴えている。この海岸は護岸・波消ブロックなど人工海岸であるが、地域住民達の自然をこれ以上破壊してはいけないという気持ちが感じられる。いつまでも清らかな気持ちになれる。

話題の新車紹介

日産「マーチ」

今月の話題の新車は、平成三年一月の登場以来約十年ぶりにフルモデルチェンジしました。三代目となる日産マーチです。



(ULEV)で地球にも優しく、低・中回転域でのトルクとパワーに優れた新トレス

開発のエンジンです。車線変更や高速道路への合流もパワフルでスムーズで、ス

SRサイドエアバック、SRSカーテンエアバックシステムも採用しました。また前面衝突の際にステアリングが前面に動き衝撃を吸収するステアリングコラムコラプス等も採用しています。

④インパネ インテリアもファッションナブルに仕上げられた。ラ

①運転操作性 先代からの伝統のコンパクトなボディ。外車と思わせる丸みを帯びた斬新なデザイン。ガラス面積の大幅な拡大により、運転席に座った三〇度傾斜を広いキャビンにひろがることにより、前方をのぞく見通しことができ、安心して後退も出来るようになりました。

②エンジン 勿論「超低排出」車



③安全 全長 1700mm、全幅 1400mm、全高 1400mm、ホイールベース 1000mm、軸距 1000mm、全長 1700mm、全幅 1400mm、全高 1400mm、ホイールベース 1000mm、軸距 1000mm。

お問い合わせ先 宗像市九四一六一 福岡日産自動車株式会社 宗像店 (〇九四〇) 三七三九三

神郡宗像 末社めぐり

シヨリ、社號ヲ萬天大神ト尊敬ス。永祿ノ頃、宗像大宮司此山ニ城ヲ築シ時、不思議ノ事共多ク、依テ今ノ所ニ神祠ヲ移シタリト、古老傳ニ云ク。明治五年十一月三日村社に被定。大正十三年十一月二十五日神饗幣料供進指定済。とある。御縁起に百八社の一つとして「津田明神」と、同高宮下符社のうちにも「津田明神」と見え、正平年中行事には祭礼日いたるま



境内神社は、水天宮神社・五穀神社(宇寺ノ上より移轉)・熊野神社(宇三助より移轉)・貴船神社・宇神田より二社移轉・宇石松浦より移轉・宇海老塚より移轉・宇松崎より移轉の九社あり、本殿の周りに鎮座している。境内は氏子の方々により開々まできれいに清掃されており、整然とした御神域のたすまいに、自然物への往古からの人々の信仰の流れが、今なお水脈のように生き続けているように感じた。

参拝を終え、小さな高台となつている境内を巡つてみると、二間三間の拝殿に続き、散敷(鶯ヶ岳)を背に建立された、方一間流造の緑青銅葺の、境内社の石祠が鎮座している。裏参道には四十五段の石段が設けられ、段上からは、城山が間近に聳え立ち、通行車両数が多い旧国道三号線と鹿児島本線の間に鎮座しているため、車両の騒音は少々耳障りではあるが、眼下に都心の喧騒を見ながら、神に祈ると、異空間にも感じられる。神代帳によると御祭神は伊弉諾尊・素戔鳴尊・伊弉冉尊・蒼魂神。由緒は、(往昔)鳥ヶ岳二出現シ玉ヒ

